

吉村

小ロット対応のエスプリ SDGs の目標 12 に積極対応



▲橋本久美子社長

日本茶のパッケージ制作・販売のトップメーカー。100 枚からオリジナルデザインのパッケージが作れるエスプリ印刷が大きな柱に成長した。パッケージ販売だけでなく、お茶の魅力を消費者にアピールする活動や、お茶の専門店の活性化などにも熱心に取り組んでいる。その1つとして20 年から取り組んでいるのが「リーフティカップ」。

紙コップの底面部に茶葉を充填し透明なフィルターで覆い、お湯を注げば淹れたてのお茶が飲めるというもの。専門店や茶商から支給された茶葉をリーフティカップにセットして戻すセミカスタマイズが中心となる。これまで市場になかった全く新しい商品を生みだし、日本茶がより身近な存在となるよう拡売に務めている。

本業のパッケージ制作は、オンデマンド印刷の

「エスプリ」を使い小ロットニーズに対応するとともに、SDGs の12 番目の目標「つくる責任 つかう責任」に貢献しているところ。「エスプリ」は、グラビア印刷に比べ、電気量を約3分の1に押さえ、試し刷りフィルムも約20分の1に低減。版レスのため、製版工程で発生するCO2の排出量はゼロになる。さらにセットカラーのみ使用するため、廃インクも出ない。小ロットで必要数量のみを製造することで、資材廃棄リスクの低減にも大きく貢献している。

「エスプリ」により、小ロットの商品でも、こだわりのあるシリーズとしてインパクトのある売場を演出できるパッケージ展開が可能になる。吉村が軟包装資材メーカーとして可能性を具現化した自社ブランド「江戸越屋 粋町しょこら」は、パッケージの力で自家消費にとどまらない「ちょっと手土産」「自分へのごほうび」という市場を切り拓いてきた。これは、心の中の家計簿で「食費」に仕訳けられてきたカテゴリーから、「交際費」「福利厚生費」へと、パッケージの力でシフトする事例だと考えている。

吉村は「想いを包み、未来を創造するパートナーを目指します」を経営理念に掲げ①私たちは、パッケージを通してキラリと光る未来を創ります②私たちは、商品への想いが伝わる舞台を造ります③私たちは、挑戦して成長し失敗と喜びを分かち合う仕事場を作ります—という想いのもと、吉村の仕事により、よい未来を創ることができるよう、知恵と力を合わせていくとしている。



▲「江戸越屋 粋町しょこら」